

電機労働者懇談会

Electric Labor and Industry Correspondence

2021年7月10日

No 403

発行者：ELIC編集委員会谷口利男
142-0043 東京都品川区二葉2-20-8
電話(03)6421-5323 染野ビル2F
郵便振替00130-3-358078ELIC編集委員会

ELIC

1部100円

第3回電機リストラ反撃集会

14企業・39職場から57人が出席

6月6日(日)13時30分から、スカイプ中継で参加された主な職場は、日立・東芝・三菱・富士電機・NEC・富士通・沖電気・パナソニック・ルネサス・サンケン・ソニー・アンリツなどでした。司会は、谷口電機懇事務局長兼ユニオン副委員長が行い、主催者挨拶を今井電機懇代表が行ないました。

電機・情報ユニオン米田委員長は「電機リストラとの闘い、資本の攻撃の特徴と闘い」と題して行い、豊富な経営分析をグラフ化して分かりやすく解説し、電機リストラは60万人を超えており、コロナ禍の中で「個別・各個」撃破的に続いていると指摘し、職場労働者は社内労組を見放してユニオンに駆け込んでいるのが実態として、闘いの砦の役割を果たすと強調され、電機大企業との闘いは、グローバル企業であり「国際労働基準の活用で遵守させ、雇用と生活・権利を守り、地域経済を守る闘いと運動に生かして行くと基調報告を纏めました。

①ルネサスの職場から、グローバル化する会社となる中で、柴田CEOが経営理念を刷り込んでおり、ルネサスの職場状況は、経営者の思惑に取り込まれる危険性がある。

②日立リストラ茨城対策会議を昨年結成し、日立の事業売却が急激に行われているので、茨城の地域経済と労働者の雇用を守る取組みをする。

③沖電気は中期経営計画の中で、子会社への転籍など労働者犠牲の施策に対して、リストラアンケートを取り組んでいる。

④富士通は、「適所適材」のジョブ型マネジメントに変え、社員のキャリア形成における有効な目標を提供する役目も果たす。20年4月から幹部社員1万5000人を対象に開始した。



⑤日立の「ジョブ型人材マネジメント」は、17年より労使間での議論を開始し、19年からジョブ型への転換に向けて具体的な取組みが進められている。

⑥ソニー売却会社のデクセリアルズは、20年8月に早退募集を行い、退職強要された労働者の雇用を守る為に、宮城労働局から文書での助言を出させ、団交して遠隔地配転撤回を求めています。

⑦実行委員会の森ユニオン書記長から、経営分析が10社で報告され大いに活用して頂きたい。

米田ユニオン委員長は、コロナ禍の中でもリストラが続いており、産業別労働組合であるユニオンは、国際労働基準とビジネスと人権でもって多国籍企業と闘う事にしているの、

パワハラやリストラ部屋に入れられた組合員は、勇気を出して闘う事の大切さを持ってもらいたい。今後ともリストラなどとの闘争を強めたいと表明した。

今月号の紙面

- ①第3回電機リストラ反撃集会
- ②NEC、日立、パナ、東芝の株主総会
- ③三菱、沖電気、富士通の株主総会
- ④日立労組本部への要請行動
- ⑤神奈川電機第41回総会を開催
- ⑥ラプラス「山口紹介」今井さん
- ⑦電機情報ユニオン、青年コーナー
- ⑧伊草裁判の「証人尋問」結果
からむすの原稿締切り。集積回路